

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	天竜川和船造船技術の伝承事業
事業主体 (連絡先)	天竜川和船文化保存会 長野県飯田市松尾新井7170
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,793,832 円

事業内容

- つなぎ舟の制作
 - 造船技術(地域材を活用した和船作り)の伝承
 - 学校教育や生涯学習との連携(見学・体験)
- 旅行商品の提案



【完成した舟(後方)と造船技術の説

事業効果

- 船頭2名を船大工に育成するきっかけを作ることが出来た。出来るだけ写真・ビデオ等での記録を残すよう努力したが、造船作業と記録撮影を同時に行うため、後から振り返ると全ての記録を残す事は出来なかった。
- 後継者の育成を行うことが出来たが、学校教育や生涯学習への取り組みに課題を残した。
- 学校教育や生涯学習への効果は少なかったが、別添のとおりマスコミに多く取り上げられ、当保存会の活動を多くの方々に周知することが出来た。
- 地域材の活用は飯伊森林組合の協力で十分に目的を達成することが出来た。来場者への説明でも地元材を使ったことによりかつてこの地より江戸、大阪に木材を送り出していたことを説明することが出来てストーリーに幅を持たせられた。
- 製造過程を大きなパネルで見せることでより説明効果を得ることが出来た。

【目標・ねらい】

- 造船技術の伝承
船頭2名の育成
- 地元への職業紹介、後継者育成
- 和船の操船技術の伝承
- 地域材活用による林業と観光の相互発展

※自己評価【 C 】

【理由】

- 記録を残していく部分で支障があった。
- マスコミを通じての一定の認知度向上は出来たが、問い合わせはなし。
- 単年度だけでは効果が薄いので引き続き継続していく。

今後の取り組み

- 造船技術(地域材を活用した和船作り)の伝承
船頭2名を船大工に育成する足掛かりは出来たが、一人前に育て上げるには長い年月継続的に造船を行って いく必要がある。今回も昨年に引き続き出来るだけ写真・ビデオ等での記録を残すよう努力したが、造船作業と記録撮影を同時に行うため、振り返ると全てを記録する事は難しかった。この記録作業については今後3年計画の中でしっかりした造船記録簿として完成させたい。また、設計図を作成して残すにも専門的な知識が必要。協力者を見つけて前に進めていきたい。